

白熱したナイスゲームの連続 少年少女ネオホッケー大会

1月28日、B & G海洋センター体育館で第37回目となる少年少女ネオホッケー大会が行われました。町内の小学校5校、総勢18（男女）チームが参加。1チーム6人がトーナメント制で優勝を争います。会場は、練習の成果を発揮しようと奮闘する小学生と、それを応援する保護者で熱気一杯。ゴールが決まるたびに、歓声が沸き起こります。どの試合も白熱したナイスゲームで、大いに盛り上がりました。ことしの優勝チームは男女ともに船越小学校で、アベック優勝となりました。



シドニー五輪出場選手が講演 夢を持つ大切さを伝える

1月26日、山田南小学校（近藤尚樹校長、児童163人）で、岩手県オリンピック・パラリンピック教室が開催されました。講師はシドニー五輪サッカー競技に出場した平瀬智行さん（ベガルタ仙台アンバサダー）。児童たちに、自身の経験を踏まえて、夢を持つ大切さを伝えました。その後、6年生を対象にサッカー教室を実施。児童たちは、リフティングやミニゲームで、一流の選手とふれあいました。参加した菊地 琉雅君（6年）は「小学生のころからがんばることの大切さを学びました」と笑顔を見せました。

多くの人に祝福されて 山田の佐藤さん100歳に

山田の佐藤ナカさん（大正5年生まれ）が、12月15日に満100歳の誕生日を迎え、12月22日、宮古第一病院で佐藤町長が長寿を祝福しました。佐藤さんは、関口で7人兄弟の長女として生まれました。趣味は野菜作りで、時間を見つけては畑の手入れにいそしんでいたそうです。「畑作業でよく体を動かしていたこと、好き嫌いせずなんでも食べたことが長生きの秘訣だと思います」と長男夫婦は話します。病室の壁には佐藤さんをお祝いするための装飾が施され、記念の日を彩りました。



会場が笑いの渦に包まれた 伊奈かっぺいさんの講演会

2月19日、町中央公民館で「人づくり・町づくり町民の集い」が行われました。ことしの特別講演会の講師は伊奈かっぺいさん。講演は漫談風に進み、小気味良いなまり口調とテンポの良い話に引き込まれます。実体験をもとにした脳梗塞のチェック方法やさまざまな雑学をおもしろおかしく伝え、会場は絶え間ない笑いの渦に。『難しい話を聞いたから賢くなったと思うのは間違い！』という講演テーマのとおり、来場者は楽しみながら学びを深めていました。



町のわだい

今月の題字 千葉 ^{しおり} 菜琳さん (大沢小2年)



アラジンとランプの魔人公演 町に吹いたアラビアの風

子どもたちがアラビアの風を運んできました——2月12日、劇団ゆうの主催するキッズミュージカル「アラジンとランプの魔人」の公演が町中央公民館大ホールで行われました。これは、沿岸部の芸術文化活動の支援を目的に行われているもので、ことして5回目の開催。本町からは37人の子どもたちが出演し、同劇団のメンバーたちとともに歌と踊りを披露しました。この日会場に訪れた約700人の観客は、「アラジン」や「ジーニー」といったおなじみのキャラクターと子どもたちの、息の合った演技に満場の拍手を送っていました。



山田わ・わ・わジャンボリー開催 12杯ののり巻き作りに挑戦

2月11日と12日、山田町まちなか交流センターで、(公財)国際開発救援財団<ファイダー>による交流イベント「山田わ・わ・わジャンボリー」が開催されました。足湯カフェやパンケーキ作りなどが行われ、約360人が訪れました。12日に行われたジャンボのり巻き作りには、36人が参加。12杯の長さ挑戦し、ほうれん草や、玉子焼きといった色とりどりの具材を酢飯の上に丁寧に載せていきました。そして、息を合わせて巻くと1本ののり巻きが完成。参加した子どもたちは「具を載せるのが楽しかった」「巻くのが大変だった」と話していました。

